

古民家から取り出した木材を保管する武部建設の倉庫。長い年月をかけて乾燥したこと、強度が増しているという=三笠市



石狩管内当別町の公務員林智史さん(39)はこの夏、5年前に購入した築30年以上の木造2階建ての自宅をリフ

環境や健康に配慮しながら住宅を改築、再生する「エコリフオーム」の取り組みが関心を集めている。道内の冬に不可欠な断熱材にペットボトルや古新聞を再利用したり、既存の柱や梁を生かし、古民家をよみがえらせたり。建築の専門家は「エコリフオームの利点をもっとPRすれば、住まい造りの新たな手本になる」と期待している。

(報道センター 渡辺淳一郎)

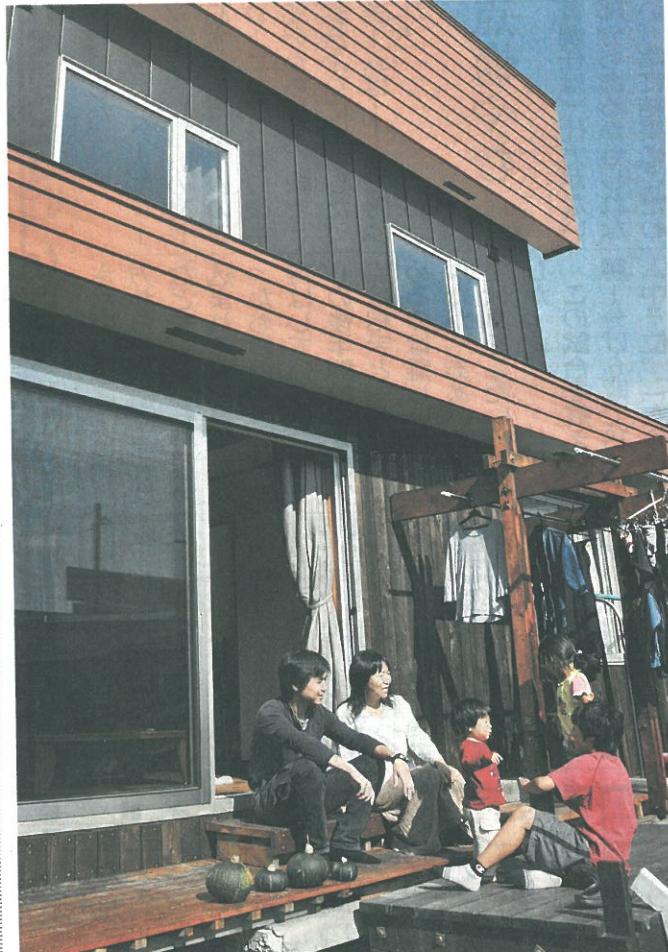
断熱材に古新聞再利用／古民家の木材も捨てず



2012年
10月27日土

発行所：北海道新聞社
札幌市中央区大通西3丁目6
〒060-8711 電話：011-221-2111
www.hokkaido-np.co.jp

住宅改修 エコ浸透



秋の日差しに照らされ、リフォームした自宅のウッドデッキでくつろぐ林智史さん一家=石狩管内当別町

景気低迷 「もつたいない」高まる

エコリフオームへの関

心の高まりについて、「バブル崩壊以降続く景気低迷の中、『もつたない』との意識が住まい造りにも広がっている」と分析する。三笠市の武部建設は



熱材は、ペットボトルや古新聞を再利用したもの。多くの住宅で使われる一般的な断熱材のように化学物質を含まないのが特長だ。

リビングルームの壁には噴火湾産ホタテの貝殻を碎いたしつくい、フローリングには

施工した「ピオプラスチック・デザイン」(札幌)の西條正幸社長は、「20~30代の若い夫婦

施工した「ピオプラスチック・デザイン」(札幌)の西條正幸社長は、「20~30代の若い夫婦

施工した「ピオプラスチック・デザイン」(札幌)の西條正幸社長は、「20~30代の若い夫婦

施工した「ピオプラスチック・デザイン」(札幌)の西條正幸社長は、「20~30代の若い夫婦

任せにせず日曜大工で自宅のリフオームに取り組む人もいる。札幌

任せにせず日曜大工で素材を選べるし、ごみを出さないよう工夫もできる。しかも、安上

り組む地帯などに残る古民家の再生に取り組んでいます。専門的に技術を磨いた大工が保存状態を確認しながら古民家をいつたん解体。気密性を高める現代技術を駆使しながら、ほぼ元の形に組み直す。

これまで十数軒手掛け、最も古い家は築80年以上たつていて。このほか、古民家から取り出した木材を新築住宅にも活用している。

同社の武部豊樹社長は「既存の家を有効に使えるだけでなく、大工が家造りの伝統技術を学ぶことができる」とメリットを説明する。

札幌市立大の羽深久夫教授(建築史)は「その昔の8世紀、藤原京から平城京への遷都際には、藤原京の瓦や柱がそのまま使われた。日本の住文化にはもども再利用の発想が息づいており、エコリフオームもPR次第で住宅づくりの新たな形として定着するはず」と話している。